

〔第26回 学術集会教育講演II〕

## 高齢者虐待防止のための家族支援： 安心づくり安全探しアプローチ（AAA）

慶應義塾大学看護医療学部

（座長）深堀 浩樹

日本家族看護学会第26回学術集会における教育講演IIとして、ソーシャルワークを専門とする長沼葉月氏（首都大学東京）と副田あけみ氏（関東学院大学）に、お二人が開発されてきた高齢者虐待に対して家族全体を支援するためのアプローチである「安心づくり安全探しアプローチ（AAA）」についてご講演いただいた。

ご講演当日は、まず「安心づくり安全探しづくりアプローチの開発の経緯」について、高齢者虐待防止法の特徴と「関係性」の問題に起因する高齢者虐待の困難さの2つから紐解いていただいた。次いで、ご本人や養護者と関わるための面接技術と多機関協働のためのスキルについて、お二人が開発された面接のためのツールとカンファレンスツールをご紹介いただきながら説明していただいた。

講演の具体的な内容はAAAの理論的基盤についての説明や論文・書籍の紹介といったアカデミックな内容と、実際に初期対応の際に行われている「頭ほぐし・体ほぐし・顔ほぐし」の実演や面接に関するツールの1つであるタイムシートを用いたロールプレイ（座長であった私も参加させていただいた）

といった実践的な内容の両方を含んだものだった。実践家と研究者の双方が多数参加している本学術集会にふさわしい内容で、壇上で拝見して聴衆の関心も非常に高いように見受けられた。

講演終了後、多くの聴衆が壇上を降りたお二人に詰めかけ質問や名刺交換をし、今後の協働の可能性について相談もされている様子を拝見した。本学術集会のウェブサイトによると、メインテーマであった「心をつなぐ」には、看護職を始め多くの職種が手をつなぎ家族と関わり、多様な学問分野とのつながりを築くといった意味も込められているとのことであった。この講演終了後の様子から、まさに学術集会長の意図通り多職種が心をつなぎ、家族への支援が発展していくことが期待され、本学術集会にふさわしい講演であったと感じた。

当日参加いただけなかった会員の方々にも、ぜひ本号に掲載されているお二人の記事や、記事の中で紹介いただいている安心づくり安全探しアプローチ研究会のウェブサイト、書籍をお読みいただき、高齢者と家族への質の高い実践や実践的な研究の発展に役立てていただければと願っている。